答　辞

時に厳しい寒さに見舞われた今年の冬も終わりを迎え、暖かい春の風が感じられる季節となりました。

新型コロナウイルスが５類感染症となり、今年度は在校生の皆さんと同席することが出来たこと、そして無事にこの日を迎えられたことに喜びを感じています。本日は、私達２３７名のために、このような盛大な卒業証書授与式を執り行ってくださったことに、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。先生方、ご来賓の皆様、在校生の皆さんから頂いた温かい言葉の数々に胸が熱くなる思いです。

遡ること３年前のあの日、私達は新生活への大きな希望と不安を背負い、この高志高校に入学してきました。学習や部活動など、それぞれが慣れない環境のなかで周囲に追いつこうと必死に過ごしていたのを覚えています。しかし、遠足や合唱コンクールなどを通して仲間と共に協力することで、徐々に新たな友情が芽生え、喜びを分かち合い、時にはお互いに叱咤激励しあえるような存在になっていきました。

高志高校での生活に慣れ、心にも少し余裕が生まれてきた２年生の秋には、選択型研修旅行に行くことができました。中学校の修学旅行が中止となった私たちにとって、本当に久しぶりとなる学校のみんなとの遠出となりました。自分達自身で計画をし、様々な場所を訪れたことは、わくわくするものであると同時に、私たちの自主性を伸ばし、将来について考える良い機会になったと思います。クラスの友情も、それまで以上に深めることができました。

３年間の数多くの行事の中でも私が１番印象に残っているのは、今年度の学校祭です。３年生が中心となって作りあげる学校祭では、私達がそれぞれの部門でリーダーシップを発揮しなければなりませんでした。何度も話し合いを繰り返し、時に互いの意見がぶつかり合うことがありました。また、学校祭期間に新型コロナウイルスの感染が拡大し、急遽予定を変更せざるをえなくなったこともありました。しかし、このような厳しい状況の中でも、全員が学校祭を成功させようと励み、努力したことで、一人一人の個性が輝き、団結し合えるような最高の学校祭を作ることができたと思います。今年度の学校祭のテーマであった「高志の坩堝」のように、各色が一丸となって盛り上がったあの瞬間は忘れられません。

学校祭も終わり秋の肌寒さを感じる季節になると、受験勉強が本格化し、目標に向かって私たちそれぞれが最大限の努力を続けてきました。試験日が近づくにつれ、不安と焦りがどんどん募り、プレッシャーに押し潰されそうになりながらも突き進んできました。そんな時に支えとなったのが周囲の存在です。頑張っている仲間の姿や家族、友人、先生方など、様々な人からの言葉に励まされ、何度も助けられてきました。皆さんの支えがなければ、ここまで来ることはできませんでした。

ところで私事ですが、先月１か月間、私はオーストラリアに留学していました。現地での生活は、日本とは全く違うもので、カルチャーショックを受けることも多くありました。多文化共生社会であるオーストラリアは、様々な民族の方がともに暮らし、それぞれの母国語が町中で飛び交う場所です。多様な人々が共に生きる社会だからこそ、そこでは自分の意思をしっかりと持ち、関わっていかなければなりませんでした。私はもともとはっきりと自分の考えを示すことが苦手であり、全て自分で考えて行動しないといけないという状況に最初はとても戸惑いました。しかし、自主性を重んじる高志高校での学びを胸に、積極的に自分の意思を伝えようと挑戦し続けました。すると、徐々に自分の考えを自分自身の言葉で伝えられる喜びを感じ、自信に繋げることができました。この経験から、学校での学習がいかに大事であったか、そしてこれまで自分がいかに周りの人に支えられていたかに気付かされました。

また、私は前期生徒会長として、スマートフォン利用に関する校則改正を公約に掲げ、尽力しました。まず、目標達成に対するプロセスとして、全校生徒にスマートフォンの危険性や校則の存在意義について、理解を深めてもらうため、全校一斉ＬＨを開きました。ここでは私たち生徒会がそれまで意識していた以上に、多角的な視点から様々な意見が寄せられました。高志高校の生徒一人ひとりが、自分たちの学校生活について真剣に考えてくれたことに大きな喜びを感じました。

しかし、実施に至るまでには多くの苦労もありました。どうすれば生徒会執行部のメンバーや先生方、そして生徒の皆さん全てにとって納得のいくプランになるか、有志や代議員と協力し何度も話し合いを重ねました。結果として、今年度は学校祭期間のスマートフォン利用の制限が緩和されることになりました。これはまだ小さな一歩かもしれませんが、このように高志高校の生徒が皆で協力し合い、自分たちの学校について真剣に考え、自律的に行動すること

で、理想が現実のものになったことは、私にとって大きな達成感を伴うものでした。

そして私が特に伝えたいことは、挑戦しない限り何も変わらないということです。在校生の皆さん、失敗を恐れずどんどん挑戦していってください。たとえ上手くいかなくても、きっとそれ以上に得られるものがあるはずです。これからの高志高校の発展と皆さんの御活躍を心からお祈りしております。

こうして３年間を振り返ると言葉では言い表せないほど、沢山の経験をしてきたのだと気づきます。高志高校で当たり前のように過ごしてきた日々が、今となってはかけがえのない思い出です。

同級生の皆さん。今まで沢山の同じ時間・同じ瞬間を一緒に過ごすことが出来て楽しかったです。皆さんとこうしてこの場にいられることを心から嬉しく思います。卒業する寂しさはありますが、４月からはそれぞれの場所で、それぞれの夢に向かって頑張っていきましょう。

先生方。先生方はいつ、いかなる時でも私たち生徒一人ひとりに真摯に向き合ってくださいました。先生方のおかげで私達はここまで成長することができ、このように卒業式を迎えることが出来ています。

家族のみんな。送り迎えや食事の準備など、どんな時も１番近くで私達のことを支えてくれましたね。素っ気ない態度をとってしまうこともあったけれど、素直になるのが照れくさかっただけで、本当は凄く感謝しています。１８年間たくさんの愛情を注いでくれてありがとう。これからも沢山迷惑をかけると思いますが、どうかよろしくお願いします。

結びに、私達を温かく見守り支えてくださった全ての方々に改めて御礼申し上げますと共に、本日御臨席いただきました皆様のご健勝と高志高等学校・中学校の更なるご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和６年３月１日

福井県立高志高等学校　第７５回卒業生代表
近藤　り紗子